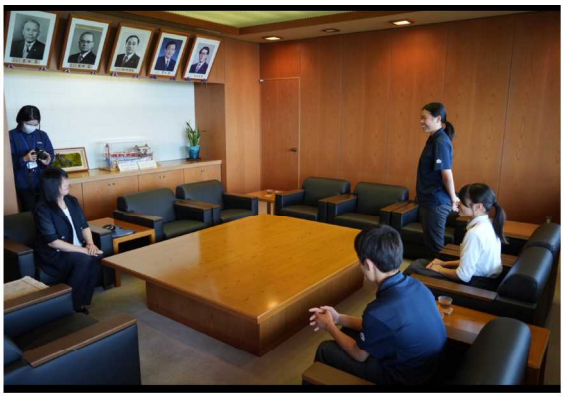
北茨城市音楽姉妹都市交流

高社中学校
髙坂 光羽

北茨城市役所に訪問



私たちは北茨城市に着いたら初めに昼食を取り、市役所に行きました。市役所では教育長さんに挨拶をしました。茨城県北茨城市は納豆だけではなく、あんこうや栗、カボチャがとても有名であると知りました。更に、あんちゃんこうちゃんというマスコットキャラについてのお話を伺いました。教育長さんと親しくお話しができてとてもいい時間になりました。お土産にあんちゃんとこうちゃんの人形をもらいました。私はこうちゃんが可愛いと思います。生徒会室に飾っておこうと思います。これからも中野市と長い間このような関係を続けて、絆を深めていきたいと、そして、姉妹都市交流が続くことを願っています。

野口雨情について



私たちは市役所を訪問した後に歴史民俗資料館・野口雨情記念館に向かいました。そこでは日本三代詩人の野口雨情さんの生涯や、作り上げた作品について知ることができました。野口雨情さんは中野市出身の作曲家、中山晋平さんとの関わりがとても深く、「シャボン玉」、「証城寺の狸」などの曲を一緒に作っています。「証城寺の狸」は中山晋平さんがアレンジをしていました。野口雨情さんはお餅がとても好きな人で、「うさぎのダンス」という曲を作っていますがこの曲は焼いてるお餅が膨れてしぼむを繰り返すところを見て、お餅をウサギに見立てて、作られた歌です。



また、野口雨情さんはいろいろな場所を旅して、そこから奥さんに手紙を送っていました。その手紙が今でも残っています。野口雨情記念館では、彼の生涯や数々の名曲の裏側にある、より詳しい歴史を学ぶことができました。館内には雨情さんの直筆原稿や写真など、貴重な資料がたくさん展示されていました。雨情さんの作る詩は、どれも言葉遣いが優しく、どこか懐かしい気持ちにさせてくれるものばかりです。記念館での学びを通し

て、彼の詩の根底には、いつも故郷である北茨城の自然や、そこで暮らす人々の温かさがあったのだと知りました。例えば、北茨城の要素が詰まった「磯原節」などの新民謡も、彼がいかに自分の生まれた土地を愛し、その魅力を全国に伝えようとしていたかの証拠だと思います。そしてその後に野口雨情生家に向かいました。そこでは野口雨情さんの孫である野口不二子さんのお話を伺いました。野口雨情さんは戦争が終わるちょっと前に亡くなられ、中山晋平さんとはとても仲が良くどちらが上で下ではなくお互いが一歩引くという関係を保っていました。野口雨情さんと中山晋平さんは200曲以上も作られました。野口雨情さんが亡くなってから中山晋平さんは、野口雨情会というものを作り、この野口雨情会は今でもなおあるそうです。

漁業資料館にて

野口雨情さんについて学んだ後は漁業歴史資料館よう・そろーというところに向かいました。「ようそろ」という言葉は、船がまっすぐ前進するときに使う航海用語だそうです。この資料館では、海とともに生きてきた北茨城市の人々の歴史や、豊かな海の恵みについて、子どもから大人まで誰でも深く学ぶことができます。そして、ここには、「常陸大津の御船祭り」の祭事船が展示されていました。このお祭りは国の選択民俗無形文化財にも指定されているそうで、実物の船の迫力に圧倒されました。何百人もの人がこの大きな船を引いて街を練り歩く姿を想像すると、北茨城の人たちがどれだけ海を大切にし、力強い伝統を受け継いできたのかがよく分かります。



そして、北茨城市の名物である「アンコウ」についても楽しく学べました。アンコウの体がどうなっているかを分かりやすく解説した模型や、「アンコウのつるし切り」の解説があり、ただ食べるだけでなく、地域の食文化として根付いている理由を知ることができました。シラス引き網漁などの漁業の仕組みも学べて、普段私たちが食べている魚が、地元の漁師さんたちの工夫や努力によって届けられているのだと実感しました。さらに、この資料館には東日本大震災の記録室もありました。大津漁港にあるこの施設も津波で大きな被害を受けたそうですが、そこから見事に復興した歴史が映像などで紹介されています。海の美しさや恵みだけでなく、自然の怖さと、それを乗り越えてきた北茨城市の強さを学ぶ、とても大切な時間になりました。

五浦六角堂にて

その後、この1日目最後の見学場所である五浦六角堂というところに行きました。そこは北茨城市の有名な芸術家である岡倉天心さんの家と作品を作っていた六角堂があります。天心さんは龍王丸という船を設計しました。そして、この六角堂は東日本大震災の津波で一度壊れていましたが、地元の方々が無くしてはダメだということで建て直されました。なお、六角堂はとても海がよく見えるところにあり、波の音が心地よかったです。そして、天心さんの弟子である正式名十の像がありました。この人は戦争中、京都、奈良には襲撃しないでほしいと頼んだ人であります。



関本中学校さんと交流して



２日目は関本中学校さんと交流をさせてもらいました。学校に着いたら関本中学校の生徒さんたちと挨拶をしました。そして、お互い、北茨城市のこと、関本中学校について、中野市のこと、高社中学校について発表し合いました。その後、関本中学校のみなさんとアイスブレイクをさせていただきました。関本中学校さんは小中一貫の学校で、小学生と中学生が仲良く、学校ではカボチャを作っており、そのかぼちゃは文化祭などで料理したり売ったりしているそうです。そして関本中学校には吹奏楽部、陸上部、テニス部、バトミントン部があり、どの部活動も仲良く活動しているそうです。関本中学校の吹奏楽部の発表では、とても迫力のある力強い合奏を聞き、すべての楽器が響き、一つ一つの楽器が主人公となり、ハーモニーが合わさった時の感動が素晴らしかったです。私はまだその曲が心に残っています。



その次に北茨城市のカボチャをつかった団子を作りました。その団子はとてももちもちしていてそのまま食べても甘くてとても美味しかったですが、かぼちゃの皮を使った餡子をつけて食べるとさらに美味しかったです。皮まで使うため、とても無駄がなく、さらに味が良くなり、最高だと思いました。
そして海辺で遊び、昼食をとって交流は終わりました。関本中学校の皆さんと仲良く交流でき、楽しい時間を過ごすことができました。

交流を終えて



私は１泊２日の北茨城市との交流を通してたくさんのことを学びました。関本中学校さんと交流して、高社中学校にはないカボチャの収穫祭や合唱コンクールがあり、違いを感じられて面白かったです。私たちは北茨城市の海にも行きました。北茨城市の海はやはり中野市にはないからか新鮮味が感じられ、とてもワクワクしました。そして、北茨城市では有名なアンコウや海鮮をいただき、野口雨情記念館や生家では野口雨情さんと中山晋平さんの関係、どんなことをしてどんな曲を残したかなどを聞きました。野口雨情さんはやはり偉大な人だと言うことを知りました。そして、五浦六角堂では岡倉天心さんは海を見てインスピレーションを得ていたのだなと思いました。また、御船祭りはとっても凄いものだと言うことを知り、ぜひ行ってみたいなと思いまし

た。この交流は、私にとってすごく価値のあるものになりました。北茨城市の魅力を、高社祭で全校の心に残り、おもしろそう、楽しそうと思えるような発表をしたいと思います。そうすることで北茨城市市役所の皆さん、関本中学校の皆さんに感謝を伝えたいと思います。

北茨城市音楽姉妹都市交流

高社中学校
阿部 文誉

○ 茨城県北茨城市について

私たちは**北茨城市役所**を訪れました。市役所では教育長さんの**湯原深雪**さんとお話をさせていただきました。北茨城市は**あんこう**や、**どぶ汁**が有名な所として知られています。お話では、関本中学校のこと、北茨城市の食べてほしい美味しいもの、姉妹都市交流がこれからも続くといいね～ということを教育長さんと、とても親しく話をさせていただき、とても楽しい時間でした。お土産として北茨城市の観光キャラクターの**あんちゃん**と**こうちゃん**のぬいぐるみと北茨城市の観光資料を頂きました。

○ 北茨城市関本中学校さんと交流して

私たちは**関本中学校**さんと交流をさせていただきました。学校に着いたらテニス部の人たちが挨拶をしてくれました。関本中学校の皆さんは、誰とも仲良しで親しみやすい雰囲気が伝わってきました。

関本中学校さんは小・中一貫学校で全校およそ200人の生徒さんがいるそうです。

まず、お互いの地域や中学校のことについて紹介を行い、北茨城市の地形について、詳しく教えてもらいました。北茨城市は寒流と暖流が近くに流れていて山も低く、風が通りやすいので夏には涼しく冬は暖かい気候だそうです。



次に、学校説明をしてもらいました。

関本中学校は生徒会役員が３年生だけでなく、２年生も生徒会役員をしていて、まだ２年生なのに素晴らしいなと思いました。

関本中学校にはたくさんのユニークなキャラクターがいて、学校を盛り上げるためにとてもいいと思いました。



関本中学校では**関本カボチャ**を育てていて、それを販売しているそうです。関本カボチャは、茨城県北茨城市関本地区で栽培されている、ほくほくとした食感で甘みの強いのが特徴のブランドカボチャで、そのカボチャを使って関本中学校の皆さんと一緒にお団子を作ってみんなで食べました。団子には関本カボチャを大量に練り込むので

すが、カボチャの緑色の皮が入ると団子の色が悪くなってしまいます。ですが、関本中学校で一緒に作った団子には工夫がされていて、団子をつけて食べる餡をカボチャの皮で作っていたのです。いい案だと思いました。そうすることで、団子に乗せた時、きれいなカボチャの色を出しながら見た目にも美しい美味しいお団子ができました。そのまま食感の違うカボチャを食べている感じで感動しました。

○よう・そろー

私たちは、よう・そろーという歴史資料館へ行きました。

よう・そろーは海岸沿いにあるのですが、2011年の東日本大震災による津波で流されてしまったそうです。よう・そろーで東日本大震災の５分映像を見ました。船が陸に上がっていて、周りの景色が黒くなって、家も、木も、道路も津波で流されて一緒に流れてきた泥に飲み込まれてしまっていました。私は2011年生まれなので、その映像を見てとても寂しくて悲しい気持ちになりました。

もう一つ、とても大きな船がありました。可愛い魚がたくさん描かれていて、すごく頑丈で豪華な船でした。その船は北茨城市の佐波波地祇神社の例大祭で、５年に一度開催される御船祭で使われる船です。その船の名前は大漁丸。祭りはユネスコ無形文化遺産や国の重要無形民俗文化財に登録されている伝統行事だそうです。
船なのに陸を練り回るのがかっこいいと思いました。



○野口雨情と中山晋平の関わり

野口雨情さんは北茨城市出身の有名な人物です。野口雨情さんについて、雨情さんの孫の野口不二子さんにどのような人物だったのかを教えていただきました。

雨情さんの性格は、丁寧でしっかりしていて、妻思いだったそうです。遠くへの出張時は妻に手紙を毎度、何通も出していたそうです。

中山晋平さんとは大正期に鈴木三重吉さんが創刊した児童雑誌『赤い鳥』などの童謡運動を通じて出会いました。そのきっかけから雨情さんが書いた詩に晋平さんが曲をつけていって、今も歌われる名曲が数々生み出されました。雨情と晋平は、芸術的童謡や新民謡を確立した**黄金コンビ**として知られています。

私たちは大人になってからも雨情さんと晋平さんが生み出した『シャボン玉』『あの町この町』歌い続けていきたいなと思いました。





◯ 北茨城市姉妹都市交流　まとめ

　初めて北茨城市に行って、美味しいものを食べ、とても楽しかったのと、中野市は内陸部の北部側で太平洋にはあまり行く機会がなかったので、東日本大震災のことをよう・そろーさんに教えていただき、ニュースだけでなく、より東日本大震災のことを詳しく知ることができました。
　野口雨情さんに関しては雨情さんの優しい性格と、野口雨情さんの詩の書き方がよくわかりました。中山晋平さんと一緒にいると黄金のコンビとか言われて、とてもかっこいいと思います。
　関本中学校ではその中学校の雰囲気と生徒会の情報を得ることができました。たくさん交流してみんなで仲良くなれました。関本カボチャも美味しかったです。

北茨城市音楽姉妹都市交流

高社中学校
瀧澤 希来

○ 北茨城市について


左からあんちゃん、こうちゃん

　北茨城市役所で、教育長さんとお話をしました。教育長さんの柔らかな物腰と温かいお人柄のおかげで緊張せずに話すことができました。お話が終わった後に記念撮影をし、お土産として市の観光ナビゲーター「あんちゃん」「こうちゃん」のぬいぐるみと、観光資料をいただきました。とても嬉しかったです。

○ 野口雨情さんについて



　大正、昭和にかけて数々の名作を生み出した詩人、童謡・民謡作詞家の野口雨情さんについてのお話を聞きました。野口雨情さんは北原白秋さん、西条八十さんとともに「童謡界の三大詩人」と呼ばれています。代表作は「シャボン玉」「証城寺の狸囃子」などです。

　野口雨情記念館では、野口雨情さんの波瀾万丈な生涯や、作品の背景にある思いについて詳しく学ぶことができました。中でも印象に残ったのは、中野市出身の中山晋平さんとの共同制作についてです。野口雨情さんの書く詩は、どこか寂しさや悲しさを含みながらも、子供への優しさに満ちています。その言葉に、中山晋平さんの親しみやすく、少し切ないメロディーが合わさることで、誰もが口ずさめる名曲ができたのだとわかりました。



　野口雨情さんの生家では、お孫さんの野口不二子さんから直接、お話を伺いました。野口雨情さんは「童心」という言葉を大切にしていたそうです。

「童謡は、童心より流れて童心を歌う自然詩である」この言葉は野口雨情さんが自身の創作の理念として掲げたものです。大人の理屈や知識で飾るのではなく、子供が生まれながらに持つピュアな心から自然に溢れ

出た言葉こそが本物の「童謡」であるという意味が込められています。子供たちの優しさに満ちた歌詞の裏にあった想いを知り、野口雨情さんの書いた詩が、より心に響くようになりました。

○ 漁業歴史資料館よう・そろーについて

　漁業歴史資料館よう・そろーでは、北茨城市の大津港周辺で5年に一度開催される海上の安全と大漁を祈願する大きな祭り「常陸大津の御船祭り（ひたちおおつのおふねまつり）」についてのお話を聞きました。常陸大津の御船祭りとは、御輿を乗せた大きな木造船を町中に引き回す全国的に珍しい祭りで、ユネスコ無形文化遺産にも登録されています。現在、使われている船は2024年の祭りに合わせて新しく作られたものだそうです。漁業歴史資料館で祭りで実際に使われた船を見ることができました。船の両側面に豊かな海の幸やサクラ、縁起物の絵が美しく色鮮やかに描かれていて華やかでした。この船には車輪がついておらず、道路の上に井桁状に組んだ木枠を敷き並べ、人力で左右に揺らすことで進みます。船を揺らすことで生まれる勢いと県内外から集まった約500人もの人が引く綱の力によって町中をこの船が走ります。その様子を映像で見ましたが、迫力があり圧巻の光景でした。次回の開催は3年後の2029年です。

　また、海岸近くに位置する漁業歴史資料館は東日本大震災で、約2メートルの高さ（1階天井付近）まで津波が押し寄せる被害を受けました。これにより館内はほぼ全壊し、多くの貴重な漁業資料が流失するなどの甚大な被害を受け、長期の休館を余儀なくされました。そのことから営業再開する際に、漁業の資料館だけでなく、「震災メモリアル展示室（震災記録コーナー）」が新設されました。ここでは、大津港の被害状況、市民の震災体験談の映像、教訓などがまとめられており、震災を風化させず未来の防災に活かすための「震災学習」の拠点となっています。





○ 天心記念五浦美術館について

天心記念五浦美術館では、美術評論家の岡倉天心さんが設計した船の復元模型を見ることができました。この船は日本の伝統的な「和船」と、西洋の「ヨット」の技術を組み合わせた、非常に珍しい和洋折衷の構造をしています。

天心記念五浦美術館の近くにある六角堂は太平洋に突き出た岩盤の上に建っていて、押し寄せる大波が崖にぶつかる迫力ある様子を間近に見ることができました。六角堂は、岡倉天心さんが自ら設計して建てた朱塗りの六角形の建物で、国の登録有形文化財に指定されています。天心さんは1903年に五浦を訪れ、この地を気に入り、六角堂を建てたと言われています。六角堂の中に入ることはできませんでしたが、周りから見る景色はとても美しかったです。天心さんは六角堂を大波（瀾）を見る東屋という意味の観瀾亭（かんらんてい）と呼んでいて、そこで思索にふけっていたそうです。六角堂は2011年に起きた東日本大震災の津波によって土台のみを残して流されてしまい、その後再建され、文化財被災のシンボルとなっています。



また、近くには明治37年に建築された天心さんの住居跡（旧岡倉天心邸）があります。邸内への立ち入りはできませんが、外観や周囲の庭園エリアを見学でき、天心さんが暮らしていた当時の雰囲気を感じることができました。

○ 関本中学校と交流して

関本中学校では、お互いの学校の行事や部活動についての様子を聞きました。関本中学校は小中一貫校で全校生徒は高社中学校よりも少ないそうです。学校の行事は小学生と中学生が合同で行うと聞きました。とても盛り上がっていて楽しそうでした。

お互いの学校紹介が終わった後、吹奏楽部の演奏を聞かせてもらいました。人数の少なさを感じさせない圧巻のパフォーマンスでした。

その後は、「関本カボチャ」を使ったお菓子作りをしました。「関本カボチャ」とは関本中学校の生徒が育てて販売している地元のブランドカボチャで、ほくほくとした食感と強い甘みが特徴です。カボチャの入った白玉団子を茹でてカボチャの皮から作られたあんこをのせて食べました。美味しかったです。

交流を通して関本中学校と、高社中学校の違いをたくさん知ることができました。

○ 北茨城市に行って

　この北茨城市音楽姉妹都市交流を通してたくさんのことを学びました。野口雨情記念館、野口雨情生家の館では、数々の名作を生み出した野口雨情さん、中山晋平さんコンビの楽曲制作、漁業歴史資料館よう・そろーでは、北茨城市の祭り「常陸大津の御船祭り」、天心記念五浦美術館では、岡倉天心さんの作品や愛した景色について。現地に行かなくては、わからないようなこともありとても勉強になりました。高社祭で北茨城市の魅力や学ばせていただいたことが伝わる発表をしたいと思います。北茨城市市役所の皆さん、中野市市役所の皆さん貴重な経験をありがとうございました。